

## 令和4年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和4年11月12日（土）10時～11時30分
- 開催場所 我孫子北近隣センター並木本館
- 参加者 市民9名
- 出席者 星野市長、山元企画総務部長、小林財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、南川建設部長、森都市部長、担当課長等14名
- 懇談要旨

市民：要望が2つと質問があります。1つは、田中調節池についてです。周囲堤の脆弱性が指摘されているが、その強化をしていただきたい。また、スケジュールを教えてください。

2つ目は我孫子駅のエレベーター設置を来春には、よろしく願います。次は、並木地区連合会からずっとお願いをしているところですが、南北東西連絡通路です。今の我孫子駅の幅だけだとこれから発展が見られる経済圏、住宅、防災上でもそこを往来することもあるでしょうから、南北の通行の利便性の強化を是非よろしく願います。

次に質問が2つあります。一つ目は帯状疱疹の補助率はどれくらいなのかを教えてください。二つ目は柴崎地区産業用地の具体的な場所と、どのようなイメージなのか教えてください。最後に、並木小学校の安全対策等については、工事を進めていただき、色々とお難うございました。

市長：帯状疱疹のワクチンについては2種類あって、種類によって金額が異なります。また、ワクチン接種については、自由診療となるため、病院によって接種費用が異なります。他市でも補助がスタートしており、その状況等を調査しながら、現在補助額を詰めている状況です。具体的になりましたらお知らせいたします。現時点では、医師会との調整もあるため、細部を詰めていて、来年1月から開始できるように進めていますが、4月から遅れる可能性もあります。12月に接種をした方などに不公平感が出ないための検討も進めており、対象は50歳以上で考えています。接種を考えている方は、少しお待ちいただくか、領収書を取っておいていただければと思います。

柴崎の産業用地は、日新の入り口付近です。そこを埋め立てすることで、堤防の強化と、企業の誘致を考えています。もうしばらくすると、埋め立てが進められるという状況です。

田中調節池につきましては、3年くらい前にほぼ満水になりましたが、100%の能力ではないと聞いています。あれでもまだ6割程度の能力であったため、国交省としてはその能力をさらに上げたいと考えています。茨城側の稲取の調節池については、掘って能力を上げ、田中調節池については、周囲堤を強化して能力を上げて、もう少し水をためたいと考えています。日新の地区については、強化が必要だと考えており、要望を伝えています。弱い部分を確認し、強化をしてほしいと伝えています。イメージ的には後田樋管と同じような堤防を作っていく必要があると考えています。次にエレベーターについては、

来春に完成する予定で工事を進めています。自由通路については、もう少しお時間をいただければと思います。

市 民：田中調節池の周囲堤の危険箇所については、散歩する人で、モグラの穴などを見つけるなど、不安なところがあったら市役所や、河川事務所に連絡してもよろしいでしょうか。

市 長：是非、情報提供をお願いします。

市 民：広報あびこ 5 月 16 日号の水道会計を見て、収益的収支とのグラフの中では収益収支については問題ないが、資本的収支についてお聞きしたい。資本的収支予算不足額があり、8 億 1,432 万円という記載があった。さらにその内訳を QR コードを使って調べたが、やっぱりわかりませんでした。普通、企業会計の中では自己資金というものについて、利益と減価償却、それからここでしたら圧縮記帳が欲しい、これがもう普通の内部資金だと思うんですけど、それを見ても収支管理の収益的収支と、資本的収支の自己資金の関係がわからない。もう少しわかるようにしないと、これを見ても理解できないのではないかと思います。その辺をわかるように広報することが大事だと思います。

市 長：今日は水道局の職員が来てなくてすいません。以前、水道局にいた現下水道課長から説明させていただきます。

下水道課長：タイムリーな話はできませんが、わかる範囲でお答えさせていただきます。水道局の事業は公営企業会計というのを導入しておりまして、これを法律で言いますと、公営企業法というものによって企業会計原則を導入しております。

純然たる民間企業の企業会計とは若干異なっているというところが前提としてあります。わかりやすくその説明、あるいは広報等で工夫をするという余地はこれからもあると思いますので、そのところは水道局にも伝えたいと思いますが、営業活動に伴う収益的収支と建設改良事業に伴う資本的収支は、どうしても区分をする必要があります。

資本的収支だけをとってみるとどうしても、建設改良に伴う収入金が限定されるので、不足するという表現になるのですが、利益の追求が公営企業の目的ではありませんので、その不足については、収益的収支で生じた利益や、ご存知のように、減価償却費で内部留保した資金等を充当することであらかじめ予算設定をして、事業を進めています。非常に大きな不足を生じていて大丈夫なのかという危惧を抱かせるのは、どうかと思いますけれども。企業予算の前提は、事業を推進する確保ができているということはお伝えしておきたいと思います。

私からもご意見については水道局にお伝えいたします。詳しくは後日水道局から説明させていただきます。

市民：グランレジデンス前の交差点についてです。昨年から歩行者が斜めに横断できる状況になっています。歩車分離式です。今後スクランブル交差点にするという話を聞きましたが、それには、路面標示と歩行者用の信号が必要だと思います。一部歩道部分の工事は終わっているようですが、その後の進捗状況等について教えていただきたい。

もう一つは、我孫子駅のホームドアについて、どのようになっているのかお聞かせください。もう一点は、新型コロナウイルスの検査についてです。無料で医療機関や薬局で検査を実施しておりますが、もう少し、周知してもいいのではないかと思います。

建設部長：スクランブル交差点については、現在は歩車分離式になっており、斜め横断はできない状態となっています。スクランブル交差点への変更については県警が実施していきまして、県警の本部に確認を取らないとスケジュールはわかりません。詳細は道路課長から説明いたします。

ホームドアについては、我孫子駅と天王台駅の緩行線で令和5年から6年にかけて設置していく予定です。快速の方は、ドアの数が異なる電車が通っておりますので、研究を進めている状況です。時期については未定です。

しかし、JRの研究が進み次第、情報提供していただける予定になっております。

道路課長：1点目のグランレジデンスの交差点については、昨年度から斜め横断ができない歩車分離型の運用となっています。しかし、実態としては斜め横断する方が多く、スクランブル交差点への変更を警察で検討していました。その後、検討が進み、今年度に入り、市に対してスクランブル交差点へ変更したいという連絡がありました。そのため道路課で、歩車境界ブロックの改修工事を先行して実施したところです。今後は警察において、信号の改修工事や、横断部分の白線引くなどの作業をしていくこととなります。年度内には完成すると思いますが、詳細が決まりましたら、数か月前に警察が現地に看板を設置するなどして、周知をしていくことになると思います。

2点目のホームドアについては、部長から説明があったとおり工事を進めております。天王台については、令和5年に、我孫子駅については令和6年に完成する予定と聞いております。もうしばらくお待ちいただければと思います。

市長：コロナのキットについては、県が実施している事業ですが、疑問点があります。医療資源に限りがある中で、一般市民が検査をすることはどうなのかと思います。検査で陰性となっても、自分で実施した検査である場合には、正しく検査できない恐れがあります。自分で鼻に入れる検査では、痛みのためうまくできないことがあります。その結果、本当は陽性なのに陰性という結果が出てしまい、安心して出歩いてしまうことが考えられます。

また、無料であることで安易に検査を受けてしまいます。その結果必要な時に必要な人が検査を受けることができなくなってしまう可能性があります。第7波の時には、病院でも足りない事態になってしまいました。無料で配って正確な検査ができないこと

を考えると、本当に必要な人が必要な検査をできるようにすることが大切だと考えております。医師会と調整して、年末年始に空いている休日診療所でコロナとインフルエンザを同時に検査ができる試薬を配置し、必要な人が必要な時に検査できる体制を整えていきます。

市 民：ありがとうございました。スクランブル交差点の件について、追加で質問させていただきたいのですが、あの工事の主管はどこになりますか。

建設部長：交通に関することは基本的には警察になり、意思決定は千葉県警本部で実施しております。今回のスクランブル交差点への変更も、県警本部で実施しております。その中で、歩道の切り下げ等は市で実施しておりますが、信号の改修や、横断歩道の白線については警察で実施することになります。

市 民：公園坂通りの話を聞き、「歩きたくなる道」というキャッチフレーズはとてもいいと思いました。公園坂にはいろいろな店が来るイメージだと思うのですが、道が短く、それだけではなかなか遠方の方は来ないのではないかと思う。公園坂だけではなく、周辺地域全体での魅力を高めていくことが大切だと思います。はけの道があり、手賀沼遊歩道や白樺文学館、鳥の博物館など全体を歩くようにすると半日以上過ごせる魅力があると思います。皆さんもお考えだと思いますが、公園坂から整備を進めて、周辺地域全体で歩きたくなる道の整備をお願いしたいと思います。

市 長：公園坂通りについては、通常に道路を拡幅できない中で、手賀沼公園・久寺家線を整備しました。整備後は、公園坂通りを歩きたくなる道として整備していくこととなりますが、周辺に住んでいる住民の生活を考える必要があります。まずは交通量が減った公園坂通りの整備を進め、さらに白樺文学館等の周辺施設までの整備を進めていきたいと思います。当市も高齢化が進み、税収が減っていますが、私も国や県に積極的に行き、補助金等を活用できるように努力し、ほかの事業を含め、魅力ある街づくりを進めていきたいと思います。

市 民：成年後見制度についてお聞きしたい。成年後見制度は2010年に発足して、同時に介護保険制度が発足しました。介護保険制度の利用者は500万人以上いるのに対し、成年後見制度の利用者は20万人程度となっている。これは、市民のニーズに制度があっていないからではないかと思います。国の方針に基づいて、市や社協でも普及に努めていると思います。後見人を変更したいと思っても変更できない、報酬を支払う必要がある。親族後見人であっても少額だが報酬を支払う必要があるといった欠点がある。市や社協で普及活動をする際にもしっかりと問題点を説明する必要があると思います。私も親族の後見人になっており、失敗したと思っています。収入が少ない中で、投資もできない。障害を持っていて、資金がない中で報酬を払う必要がある。制度の改正は5、6年に1度

になると思います。市としては、その前に対応をしてほしいです。

市長：我孫子は31%の高齢化率で、2万人を超える75歳以上の方がいます。認知症になって自己判断ができなくなり、成年後見制度を必要とする方がいます。独居である場合には、資産がなくても、利用せざるを得ない方がいます。

また、障害を持った方にとっても必要な制度となっています。後見人を選定するのは裁判所ですが、弁護士や社会福祉士は選任するが、行政書士や司法書士は選定されにくいようです。ただ、弁護士よりも、行政書士や司法書士がいいと思うこともあります。後見制度を必要とする方が多い中で、後見制度の周知の仕方を考える必要があると思いますので、社会福祉協議会とも協力して、今のケースのこともありますので、お知らせの仕方を検討していきたいと思います。

市民：柴崎地区の産業用地に土を搬入するなど、今後工事が始まると思います。栄地区の埋め立てでも課題があったと思いますが、安全な搬入工事を進めていってほしいと思います。また、事業のスケジュールがわかり次第住民にお知らせください。

環境経済部長：工事の計画は今年度中に策定できるように調整しております。この事業は、民間事業者や県と一緒にやる事業です。まずは民間事業者の方で、用地買収を含めて工事を進め、最終的には令和8年度に完成する予定です。その中で、色々な問題点を解決しながら進めていきたいと思います。住民の方には随時情報をお知らせしていきます。

市長：もうしばらくするとスケジュールが見えてくるとと思います。土をどこから持ってくるかという点については、マンション開発地や、国の事業で出た土を持ってくるのか、ということもあります。安心できる土である必要がありますので、しっかりと調査をした上で搬入していきます。搬入する際には基本的には6号側からとなります。日新地区の子供たちの安全のためにも、6号からの搬入であれば大丈夫ではないかと思います。具体的に決まりましたら、周辺の自治会にお知らせをしていきます。

市民：新型コロナウイルスの感染が拡大し、病床がひっ迫され、ほかの病気への対応ができないことがあったと思います。私自身も実際に経験しました。コロナで亡くなった方や、医療がひっ迫し、それに関連して亡くなった方もいると思います。今後は、そのようなことがないようにお願いいたします。

市長：東葛地区は病床数が少ないと、県に要望しています。5年に1回見直しがあります。県がそれぞれのエリアに病床数を指定していますが、葛南地区では指定した病床数を越えています。名戸ヶ谷あびこ病院には、もう少し、病床を増やすことができますが現状ではできていません。

また、徐々にコロナの患者を受け入れる病院が増えていますが、人数や症状は各病院

によって異なっています。時々病院内でクラスターが起きてしまったことに対して、苦言を呈する方がいますが、テレビでも見るように、最大限の感染拡大防止対策をした上で、クラスターが起きてしまっており、受け入れをしない病院ではクラスターは起きません。私からしたら、コロナ患者を受け入れる病院には感謝しかありません。

東葛地区ではもともとの病床が少なく、病床がひっ迫していた時には、旭市や君津市まで救急車で患者を搬送したことがありました。そのような状況ですと救急車も足りなくなってしまうました。しかし、柏などの広域で対応することで、応援をしてもらったりするなどして対応できました。

病院についても広域で対応し、さらに病床を確保したいと思っております。知事にもそのことを伝えていきたいと思っております。

ただ県の言い分もわかるどころもあり、病床を増やしても人員がないということもあります。引き続き病床を増やしてもらうように要望を伝えていきます。